平成23年第2回定例
夕張市議会会議録
平成23年6月24日(木曜日)
午前10時30分開議

◎議事日程

- 第 1 議席の変更について
第 2 会期の決定について
第 3 市長並びに教育委員会委員長等の行政報告
と報告に対する質問
第 4 市長所信表明及び教育行政執行方針

◎出席議員(9名)

大 山 修 二 君
小 林 尚 文 君
高 間 澄 子 君
熊 谷 桂 子 君
高 橋 一 太 君
島 田 達 彦 君
高 橋 一 太 君
藤 倉 肇 君
厚 谷 司 君
角 田 浩 晃 君

◎欠席議員(なし)

午前10時30分 開議

- 事務局長 竹下明洋君 ご起立願います。
●議長 高橋一太君 ただいまから平成23年第2
回定例夕張市議会を開会いたします。
●議長 高橋一太君 本日の出席議員は9名、全
員であります。
●議長 高橋一太君 これより、本日の会議を開
きます。
●議長 高橋一太君 本日の会議録署名議員は、

会議規則第118条の規定により

高間議員
熊谷議員

を指名いたします。

●議長 高橋一太君 日程に入ります前に、事務
局長から諸般の報告をいたします。

●事務局長 竹下明洋君 報告いたします。

参与並びに書記の職氏名についてであります、
地方自治法第121条の規定に基づき、議長の求めに
応じて出席した参与の職氏名、また本議会の書記の
職氏名は、お手元に配付してありますプリントのと
おりであります。

以上で報告を終わります。

「別紙」

市長 鈴木直道君
教育委員会委員長

氏家孝治君
選挙管理委員会委員長

板谷努君
農業委員会会長 山田昇君

監査委員 松倉紀昭君

◎市長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

理事 清水敬二君
地域再生推進室長

石原秀二君
地域再生推進室総括主幹

中港康裕君
地域再生推進室総括主幹

芝木誠二君
地域再生推進室主幹

上田晃弘君
総務課長 寺江和俊君

総務課総括主幹 三浦護君

総務課主幹 佐藤喜樹君

総務課主幹 平塚浩一君

総務課主幹 近野正樹君

総務課主幹 大 島 琢 美 君
総務課主幹 中 沢 吉 弘 君
建設課長 細 川 孝 司 君
建設課総括主幹 小 林 正 典 君
建設課主幹 朝 日 敏 光 君
建設課主幹 熊 谷 修 君
建設課主幹 押野見 正 浩 君
建設課主幹 佐 藤 学 君
建設課主幹 成 田 裕 幸 君
建設課主幹 大 森 世志英 君
建設課主幹 細 木 良 一 君
建設課主幹 竹 澤 祐 幸 君
市民課長 天 野 隆 明 君
市民課総括主幹 木 村 卓 也 君
市民課主幹 小 松 政 博 君
市民課主幹兼南支所長
千 葉 葉津乃 君
福祉課長兼福祉事務所長
池 下 充 君
福祉課総括主幹 松 本 賢 司 君
福祉課主幹 武 藤 俊 昭 君
福祉課主幹 濱 中 昌 一 君
出納室長 熊 谷 禎 子 君
消防長兼消防次長
鷲 見 英 夫 君
消防署長 増 井 佳 紀 君
消防本部管理課長
田 中 義 信 君

◎教育委員会委員長の委嘱を受けて出席した者の
職・氏名

教育長 小 林 信 男 君
教育課長 秋 葉 政 博 君
教育課総括主幹 古 村 賢 一 君
教育課主幹 松 本 邦 由 君
教育課主幹 鈴 木 茂 徳 君
教育課主幹 西 岡 博 幸 君

◎選挙管理委員会委員長の委嘱を受けて出席した者
の職・氏名

事務局長 及 川 憲 仁 君
◎農業委員会会長の委嘱を受けて出席した者の職・
氏名

事務局長 朝 日 敏 光 君
◎監査委員の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 及 川 憲 仁 君
◎本議会の書記の職・氏名

事務局長 竹 下 明 洋 君
主査 熊 谷 正 志 君
主査 辻 一 郎 君

●議長 高橋一太君 本日の日程は、お手元に配
付しているプリントのとおりであります。

それでは、直ちに日程に従って会議を進行いたし
ます。

●議長 高橋一太君 日程第 1、議席の変更につ
いてを議題といたします。

お諮りいたします。

この際、ただいまご着席のとおり議席を変更した
いと思います。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。

したがって、ただいま着席のとおり議席を変更す
ることに決定いたしました。

●議長 高橋一太君 日程第 2、会期の決定につ
いてを議題といたします。

この場合、議会運営委員会委員長の報告を求めま
す。

小林委員長。

●小林尚文君（登壇） ただいまから、今期定例
市議会の運営に関し、先に議会運営委員会を開催し
協議しておりますので、その結果についてご報告申
し上げます。

まず会期についてであります。付議案件は当初、
議案 13 件、報告 12 件でありましたが、意見書案 8

件が目下調整中でありますので、これらを合わせますと 33 件となるものでありますが、意見書案の調整内容によってはこの件数が変更となることも予測されますので、あらかじめご承知置き願います。

そのほか、通告されております 8 名、14 件の一般質問、さらに前定例市議会以降における市長並びに教育委員会委員長等の行政報告と報告に対する質問でありまして、これらの取り扱いを勘案しながら協議いたしましたが、会期につきましては本日から 28 日までの 5 日間と決定しております。

次に、これらの案件の取り扱いについてであります。付議されます案件はいずれも本会議最終日にそれぞれ上程し、即決することといたしております。

次に一般質問の取り扱いについてであります。本定例会より質問者は初回の質問は登壇の上、通告されている質問を一括して行い、理事者も登壇の上、一括して答弁する一括質問一括答弁方式に改め、再質問以降はこれまでどおり、質問者は質問席から一問一答方式による質問を行い、理事者も自席において答弁することといたしますので、議員並びに理事者各位のご理解、ご協力をお願いいたします。

また、質問の際、議席にいない場合は最終といたします。

次に、審議日程につきましてはお手元に配付しております会議日程表に従って順次説明いたしますので、ご覧願います。

まず本日は、市長並びに教育委員会委員長等の行政報告とこれに対する質問を行った後、市長からの所信表明、教育長からの教育行政執行方針を順次受け、この日の会議を散会といたします。

次に、25 日、26 日は市の休日のため休会といたします。

次に、27 日は一般質問を行い、この日の会議は延会といたします。

最後に 28 日でありますが、本会議第 3 日目を開催し、2 日目に引き続き一般質問を行い、終了次第、付議されております案件を順次上程、議決をし、本定例市議会を閉会することとしております。

以上で報告を終わります。

●議長 高橋一太君 ただいまの議会運営委員会委員長の報告のとおり、本議会の会期を本日から 28 日までの 5 日間と決定してご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。

したがって、本議会の会期は本日から 28 日までの 5 日間と決定いたしました。

●議長 高橋一太君 日程第 3、市長並びに教育委員会委員長等の行政報告と、報告に対する質問を行います。

市長。

●市長 鈴木直道君（登壇） 平成 23 年 3 月 11 日から平成 23 年 6 月 23 日までの行政についてご報告申し上げます。

はじめに産炭地対策についてでございますが、5 月 27 日、札幌市において開催された北海道産炭地域振興センター第 82 回通常総会に出席し、平成 22 年度事業報告及び収支決算報告を承認した後、平成 23 年度事業計画及び収支予算等について審議決定したところでございます。

同じく 27 日、札幌市において開催された平成 23 年度空知炭鉱市町活性化推進協議会総会に出席し、平成 22 年度事業報告及び収支決算の承認をした後、平成 23 年度活動方針及び収支予算について審議決定したところでございます。

次に財政関係についてでございますけれども、3 月 18 日、平成 22 年度特別交付税は 15 億 8,396 万 5,000 円と決定されました。

前年度対比で、1 億 5,051 万 2,000 円の増額となったところでございます。

次に地域開発関係についてでございますが、3 月 29 日、国土交通省札幌開発建設部において開催された道の駅登録証伝達式に前市長が出席し、道の駅登録証を受領し、お礼の言葉を述べたところでございます。

6 月 10 日、夕張市民研修センターにおいて第 3 回

夕張市まちづくりマスタープラン策定委員会を開催し、まちの将来像、都市構造の検討等について策定委員とともに協議を行ったところでございます。

6月18日、道の駅夕張メロードにおいて開催された道の駅夕張メロード開所式典に出席し、挨拶を述べたところでございます。

次に道路関係についてでございますが、5月17日、札幌市において行われた主要道道夕張新得線建設促進期成会による要望行動に参加し、早期整備について北海道に対し関係市町村とともに要望を行ったところでございます。

同じく17日、札幌市において開催された北海道横断自動車道早期建設促進期成会総会に出席し、平成22年度事業報告及び収支決算の承認をした後、平成23年度事業計画及び収支予算について審議決定したところでございます。

同じく17日、札幌市において行われた北海道横断自動車道早期建設促進期成会による要望行動に参加し、千歳～本別、足寄～釧路・北見間の早期完成について、民主党北海道に対し関係市町村とともに要望を行った後、ネクスコ東日本北海道支社との意見交換に出席したところでございます。

5月18日、札幌市において行われた北海道横断自動車道早期建設促進期成会による要望行動に参加し、千歳～本別、足寄～釧路・北見間の早期完成について、北海道開発局及び北海道に対し関係市町村とともに要望を行ったところでございます。

次に市長会関係についてでございますが、5月12日、苫小牧市において開催された平成23年春季北海道市長会及び全国市長会北海道支部総会に出席し、本市の行政執行体制に対する各市からの支援についてお礼を述べるとともに、今後の支援継続に係る要請を行ったところでございます。

6月3日、芦別市において開催された平成23年度空知市長連絡協議会春季定期総会に出席し、移住定住施策に係る宅地分譲地の販売促進策等、各市が抱える課題について情報交換を行ったところでございます。

次に一般関係でございますが、3月25日、消防本部庁舎前において東日本大震災に係る緊急消防援助隊職員の派遣に伴う出発式を実施し、消防管理者であった前市長が派遣職員に激励の言葉を述べたところでございます。

3月28日、岩見沢市において開催された空知地方総合開発期成会平成22年度第1回臨時総会に前市長が出席し、東日本大震災被災地支援対策について審議を行い、これを承認したところでございます。

3月31日、市役所応接室において東日本大震災に係る緊急消防援助隊職員の派遣に伴う帰任報告会を実施し、前市長が帰任した職員から報告を受け、ねぎらいの言葉を述べたところでございます。

4月6日、ゆうばり小学校において夕張市立ゆうばり小学校開校式典を挙行し、前市長が式辞を述べたところでございます。

4月11日、デイサービスセンターすずらん・シルバー共同住宅陽光において開催されたデイサービスセンターすずらん・シルバー共同住宅陽光開所式に前市長が出席し、祝辞を述べたところでございます。

5月13日、札幌市中央卸売市場において開催された夕張メロンの初せりを訪問し、関係者に挨拶を述べたところでございます。

5月14日、花とシネマのドリームランドにおいて開催されたゆうばり桜まつりに出席し、挨拶を述べたところでございます。

5月16日、北海道庁を訪れ、高橋はるみ北海道知事に対し、夕張メロン初せり及び初出荷の報告を行ったところでございます。

5月20日、夕張鹿鳴館において開催された平成23年度北海道市議会議長会道央支部協議会意見交換会に出席し、意見交換を行ったところでございます。

5月24日、東京都において片山善博総務大臣を訪問し、本市が置かれている現状を説明した後、財政再生計画に係る期間短縮について支援の要請を行ったところでございます。

同じく24日、東京都において管内選出国會議員ほかを訪問し、本市が置かれている現状を説明した後、

支援の要請を行ったところでございます。

5 月 25 日、埼玉県庁において上田清司埼玉県知事を訪れ、本市が置かれている現状を説明した後、支援の要請を行ったところでございます。

同じく 25 日、埼玉県三郷市役所において木津雅晟三郷市長を訪れ、本市が置かれている現状を説明した後、支援の要請を行ったところでございます。

5 月 26 日、東京都議会において東京都議会各会派を訪れ、本市の現状を説明した後、支援の要請を行ったところでございます。

同じく 26 日、東京都庁を訪れ、東京都石原慎太郎知事並びに猪瀬直樹副知事に対し、理事職の派遣及び本市支援に係る担当窓口の設置について要請を行ったところでございます。

5 月 27 日、市役所会議室において開催した石炭博物館連絡協議会に出席し、挨拶を述べたところでございます。

5 月 28 日、東京都による本市支援の担当窓口となった東京都知事本局池田俊明政策担当部長が来夕したので、本市の観光施設や宿泊施設等の現状を説明した後、市内視察に同行し、支援の要請を行ったところでございます。

5 月 31 日、夕張市農業協同組合において開催された夕張市農業協同組合前田昌一代表理事組合長及び市内農業団体との意見交換に出席し、市職員の農業体験の受け入れについて要請を行うとともに、本市の農業振興及び販路拡大について意見交換を行ったところでございます。

6 月 1 日、市役所会議室において夕張市情報公開・個人情報保護審査会を開催し、審査会委員に委嘱状を交付した後、挨拶を述べ、個人情報の収集及び目的外利用等の規制について諮問し、答申を受けたところでございます。

6 月 9 日、清水沢イベント広場において開催された関西京都今村組 YOSAKOI 夕張ライブに出席し、歓迎の挨拶を述べたところでございます。

6 月 11 日、旭川市において開催された旭川夕張会設立総会に出席し、感謝の言葉を述べたところご

ざいます。

6 月 15 日、東京都庁全国観光 PR コーナーにおいて開催された夕張観光物産展オープニングセレモニーに出席し、挨拶を述べたところでございます。

6 月 18 日、大原正行東京都教育長が来夕したので、市内観光施設や宿泊施設等を中心とした市内視察に同行し、各施設の概要について説明を行うとともに、支援の要請を行ったところでございます。

同じく 18 日、三笠市において挙行されました三笠市開庁 130 年記念式典に出席したところでございます。

3 月 12 日から 6 月 20 日まで、市内において各種機関、団体の総会等が開催されたので、次のとおり出席し、挨拶を述べたところでございます。ご覧いただきたいと思っております。

次に平成 22 年度各会計決算見込みについてであります。別紙調書のとおり添付してございます。ご覧いただきたいと存じます。

次に現金及び物品の寄附につきまして、別紙調書のとおり個人及び団体から現金及び物品等の寄附がございました。

本議会を通じまして感謝の意を表し、報告に替えさせていただきますと思っております。

以上、行政報告を終わります。

●議長 高橋一太君 教育長。

●教育長 小林信男君（登壇） 平成 23 年 3 月 11 日より 6 月 23 日までの教育行政にかかわる主なものについてご報告させていただきます。

3 月 28 日、岩見沢市において開催されました平成 22 年度第 5 回空知管内市町教育委員会教育長会議に出席をし、空知教育局の各課所管事項について説明を受けたほか、当面する教育上の諸課題について意見交換を行ったところであります。

4 月 1 日、平成 23 年度教職員人事を次のとおり実施をしたところであります。

小学校 6 校の統合により、教員は前年比 24 名の減員となったところであります。

4 月 6 日、ゆうばり小学校体育館において、児童

生徒、保護者、地域住民、来賓等、約 400 名が出席をし、新生ゆうばり小学校の開校式を挙行したところであります。

4 月 13 日、岩見沢市において開催されました平成 23 年度空知管内市町教育委員会連絡協議会総会に教育委員長とともに出席をし、平成 22 年度事業報告及び歳入歳出決算報告、平成 23 年度事業計画及び予算について審議決定をし、あわせて新役員を選出したところであります。

4 月 13 日、引き続き開催されました平成 23 年度空知管内市町教育委員会教育委員会議に教育委員長とともに出席をし、平成 23 年度空知管内教育推進の基本方針について説明を受けたところであります。

また、引き続き開催されました平成 23 年度第 1 回空知管内市町教育委員会教育長会議に出席をし、空知教育局の各課所管事項について説明を受けたほか、空知管内の教育推進上の諸課題について意見交換を行ったところであります。

4 月 26 日、岩見沢市において開催されました平成 23 年度第 1 回公立高等学校配置計画地域別検討協議会に北海道夕張高校長、夕張中学校長とともに出席をし、北海道教育庁新しい高校づくり推進室から公立高等学校配置計画等の考え方について説明を受けた後、意見交換を行ったところであります。

5 月 10 日、留萌市において開催されました平成 23 年度北海道都市教育長会春季定期総会に出席をし、平成 22 年度事業報告及び歳入歳出決算報告、平成 23 年度事業計画及び予算について審議決定し、新役員を選出した後、平成 24 年度文教施策に対する要望事項等について審議を行ったところであります。

5 月 18 日、月形町において開催されました平成 23 年度南空知市町教育長会議に出席をし、南空知管内における小中学校統合にかかわる協議を行った後、新役員を選出したところであります。

以上、報告とさせていただきます。

●議長 高橋一太君 これより、報告に対する質問を行います。

はい、藤倉議員。

●藤倉 肇君 藤倉でございます。

まず、新市長には就任早々、非常に手際よいタイミングで各関係部門と折衝され、大きな成果を挙げられていることにつきまして心から敬意を表します。

その中で一つご質問したいのは、ただいまのお話の中で市長は北海道、また総務省、そして埼玉県、東京都と廻られまして、夕張市の現況を説明し、支援を要請してまいられました。

その中で、特に私は総務大臣、片山総務大臣との懇談の中で、大臣の答弁といたしますか、市長が感じられた大臣の夕張市に対する思いといたしますか、その感触のところを一部お聞かせ願いたいと、このように思います。

●議長 高橋一太君 市長。

●市長 鈴木直道君 藤倉議員のご質問にお答えいたします。

総務省片山大臣を訪問いたしまして、まずお話の中の中心になったのは、現在進んでおります財政再生計画についてでございます。

私の方から、実質残り 16 年間という長きにわたる部分についてどうお考えなのか。私としては、この期間が長過ぎるのではないかということをお話しました。

大臣についても同様の言葉をいただきました。国もそういった共通の思いを持って、これから具体的にどういった形でそれを短縮していくのかという議論は当然これからの話ですが、大臣のお立場の中でそういったご発言をいただけたことは非常にありがたいなと思っております。

また夕張について、大臣になられてから来てないという状況もありましたので、あわせて機会を見て訪問いただけないかということもあわせて依頼をいたしまして、近く訪問したいと考えておりますというようなご回答をいただいたところでございます。

以上でございます。

●議長 高橋一太君 藤倉議員、再質問ありますか。

「ありません。ご苦勞さまでした」と呼ぶ者

あり]

●議長 高橋一太君 ほかに質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでありますから、日程第 3、市長並びに教育委員会委員長等の行政報告と報告に対する質問はこの程度で終結いたします。

●議長 高橋一太君 日程第 4、市長所信表明及び教育行政執行方針を順次聴取いたします。

市長。

●市長 鈴木直道君（登壇） 私は、この 4 月 24 日に執行されました市長選挙におきまして、多くの市民の皆様への信頼を賜り、市長に初当選させていただきました。心から厚くお礼を申し上げます。

市長就任からはや 2 カ月が経過いたしました。

その中で私は、この夕張市が道内外の多くの皆様からの大きなご支援により支えられている自治体であることを改めて痛感しているところであり、そのご支援にしっかりと応え、夕張市の再生を着実に進めなければならないという大変重要な使命に日々身の引き締まる思いであります。

そうした中、私は夕張市の新しい市政執行者としてその責任の重さを認識しながら、市長としての執務に専念しているところであります。

本日は、ここ定例市議会本会議におきまして市民の皆様、そして市民の代表たる市議会議員の皆様へ、1 期目の市政を行うに当たっての私の所信を述べさせていただきます。

はじめに、私が市政運営において最も大切にしたいもの、それは市民の皆様の声であるということを宣言いたします。

選挙戦の中で、私は約 5,700 世帯余りの方々とお会いしてきました。雨の降る中、雪の降る中、夕張のためにと手を強く握ってくれたあの温かい手が私の原点であります。

私が市内を歩き、握り返していただいた手の中には、長年炭鉱で力を尽くしてくださった方々の手も

ありました。

夕張は炭鉱とともに成長し、エネルギー政策の転換という激動の歴史を歩んできました。夕張の根底にはそうした変化を生き抜いてきた方々の想いが流れております。そうした想いを胸に、今、しっかりと夕張の歴史認識が改めて必要ではないかと考えております。

夕張は、炭都として隆盛を誇った時代と、エネルギー政策の転換により石炭産業が斜陽となる地域衰退の時代という相反する歴史を体験してまいりました。

そうした中、夕張市が行ってきた炭鉱から観光へを目指すまちづくりは地域活性化の象徴であり、観光事業を推進することで炭鉱閉山の後始末を進めることは、当時の夕張市にとっては重大な決断であったと考えております。

夕張市はこうした新たなるまちづくりに一丸となって懸命に取り組んできたものの、これまでの産炭地域に対する国の財政支援の基盤であった産炭地域振興臨時措置法が失効したことに加え、我が国の経済が未曾有の大不況に陥る中、地方交付税制度の見直しなどにより地方における従来の財政運営手法が行き詰ったこと、また、閉山後の地域振興対策や観光事業への過大投資が財政を強く圧迫したことなどから、ちょうど 5 年前の平成 18 年 6 月に当時の市長が財政再建団体となることを断腸の思いで決断し、市議会のこの場において表明したところであります。

当然、財政再建は夕張市の責任において成し遂げていかなければなりません。しかしながら、混乱の中で策定した財政の立て直しを主眼とする財政再建計画は、予想以上に厳しい内容のものとならざるを得ませんでした。

こうした中、国においては地方自治体の財政破綻を防ぎ、また破綻した場合の財政健全化を着実に進めるための地方公共団体の財政の健全化に関する法律を新たに制定したのであります。

本市は、この法律に基づき新たに財政再生計画を策定し、総務大臣の同意を得て、全国初の財政再生

団体になることとなりました。

この新計画は、ご承知のとおり当初の計画とは異なり、財政の再建と地域の再生を目的として必要な事務事業をできる限り反映させたものとなりました。

しかしながら、当市の標準財政規模である約 45 億円の 7 倍にも匹敵する約 322 億円もの財政赤字を着実に解消していくためには、引き続き歳入の確保と歳出の抑制に懸命に取り組んでいかなければなりません。

こうした厳しい状況の下、本市の再生を図っていくためには、本市に漂っている大きな閉塞感を打破し、夕張のイメージチェンジに取り組んでいくことが大切であると考えます。

財政破綻したまちから再生に向かい走り出したまちへと、着実に見える形で変わっていくことが必要であり、そのためには市役所自体を改革するとともに、市民の皆様の情熱と知恵を集め、夕張はひとつという意識の醸成が不可欠であると感じております。

本市には、これまで石炭産業が輝いていた時代から今日に至るまで、何かに依存する体質があったように思えます。また、必要なことであっても前例のない改革から目を背けてきた感もあります。

私は、本市が心身ともに生まれ変わっていくためには、今こそこうした依存心や前例主義からの脱却を大胆に進める必要があると考えます。

財政再生団体だからというネガティブな考えから、夕張だからこそできる、やれるというポジティブな発想への転換が必要なのです。

私は、これから行財政運営に取り組んでいくに当たり、この前例主義からの脱却と、できる、やれるを目指す意識改革を基本姿勢に据え、前進してまいりたいと強く考えております。

そして、この姿勢を持つことこそが夕張市を新たな可能性を創造するまちへと変えていくスタートであり、自分たちの手で未来を創り、自信を持ってそのまちを子どもたちに引き継ぐことにつながるものと確信いたします。

私は、こうした理念を胸に、夕張市長として次の

四つの事項に真摯に取り組むことを誓います。

まずその一つは、夕張の真の再生であります。

今の厳しい時代、多くの地方自治体においては自主性・自立性が損なわれているように感じます。これは地方自治の異常事態であり、危機的状況であると思います。

地方が自らの持つ役割を踏まえ、それぞれの地域が特性を活かしたまちづくりを進めなければ、どの自治体もただ厳しい財政状況に耐える生活を市民に強いるだけに終わってしまうこととなります。

市民の皆様が安心して住んでいける、住み続けたいと思えるまちづくりを進めるためには、市民の夢と希望がそこになくてはなりません。

財政の再生とともに、そうしたまちづくりへの思いの一部が反映された計画が現在の財政再生計画であると考えておりますが、本年度を含め残り実質 16 年の計画期間はあまりにも長く、何とか短縮できないものかと、市長就任後、苦悩する日々でありました。

しかし、この思いは夕張市に住む者だけのものではなく、先般挨拶に出向いた片山善博総務大臣や高橋はるみ北海道知事をはじめ、大勢の方々から同様のお言葉をいただき、私は大変感激をしたところであります。

まずはそのことを皆様にご報告するとともに、今後は国や道との連携をさらに深めながら、計画期間の短縮に向けた検討を絶えず行っていきたいと考えております。

また私は、夕張が持つ特性を活かしたまちづくりを進めながら、市民が安心して幸せに暮らし続けられるまちを創ることが、夕張の真の再生につながるものと信じております。

そのためには、財政再生団体であっても、まちの将来像やそれを実現するための取り組みについて市民の皆様のお声をお聞きしながらとりまとめ、真の再生に向けたまちづくり計画を策定することが不可欠であります。現在、今年度末の完成を目指し検討を進めている夕張市まちづくりマスタープランの中に

その思いを着実に反映していきたいと考えております。

二つ目は、行政改革の着手であります。

柔軟で機敏な市政運営を実現するためには、職員の意識改革がまず必要です。

職員は、地域の実情や課題に常に目を向け、その解決に向けて自ら考えていかなければならないと考えます。

私は、職員が地域における市民の声を吸い上げ、行政運営に反映するシステムとして地域担当職員制度を早期に導入し、職員の意識の高揚と地域の課題処理に努めます。

また、一方的な情報の提供や要望の受入れではなく、市政の成果を市民にわかりやすく説明し、可能なことは進める、できないことはなぜできないのかを明らかにすることで市民の市政参画を進め、地域づくりにおける市民との協働体制を構築していきたいと考えます。

そのためにも、職員の士気高揚が重要です。職員の奮起を促すためにも、真に頑張った者が正当に評価されるシステムの整備も図らなければなりません。

職員一人ひとりが公務における目標を設定し、実施後、その検証・評価を行なう人事評価システムの導入を検討するなど、職員の資質の向上に努めてまいります。

三つ目は、安心して生活できる夕張づくりを進めてまいります。

夕張市は、全国都市の中で最も高齢化が進んでいる市であります。

しかし、お年寄りが多いからといって何ら深刻な問題ではありません。

むしろ、元気に毎日を過ごしていらっしゃる高齢者の方々のお知恵をお借りしたり、歴史などを学ばせていただけることはすばらしいことであり、そのことを地域の再生に活かしていくことのできるスキームづくりが必要ではないかと考えます。

その一つが予防医療であり、高齢者の在宅医療であります。

夕張市のように高齢化率が 44%を超える地域において、これらの取り組みを進めることは、安心な生活を守るための救急医療の維持とともに大変重要なことであり、バランスのとれた医療体制を市民の皆様とともに考え築いていくことが喫緊の課題であると認識しております。

また、元気な高齢者を増すための夕張ならではの支援策を確立したいと考えております。

私の出身地である埼玉県三郷市では、市民ぐるみで健康増進策を展開していることから、そうした先進的な事例も参考にさせていただきながら、高齢者はもとより、市民の健康増進対策に取り組んでまいります。

高齢化が進む一方で、乳幼児や児童の数が減少する少子化が進んできております。

子育て世代や若い方々が安心してこのまちに住んでいただくことが可能となるような政策の早期実行が必要であることから、乳幼児医療費の無料化や健康診断の無料化など、これまでの枠にとらわれない政策を実現させるとともに、子育て世代と高齢世代が交流し、お互いに学び合い、助け合って毎日を過ごしていくことができる3世代交流のまち実現に向けた取り組みを進めます。

さらに、高齢者をはじめ、市民にとって冬の除雪は大きな負担となっています。特に、市営住宅等の団地内にあっては降り積もった雪をはねる作業とともに、堆積した雪の排雪作業は二重苦となっており、雪の壁は交通安全対策からも大きな問題となっています。

こうした問題を踏まえ、市民に優しい除雪、排雪の推進を検討し、その実現に向けて取り組んでまいります。

四つ目は、首都東京との連携であります。

我が国の政治経済をはじめとする様々な分野は、首都東京を中心に動いていることは紛れもない事実です。

東京一極集中という問題はもちろんありますが、我が国の中心はやはり首都東京にあり、多くの自治

体が東京都との連携を望んでいることは間違いないでしょう。

私も、東京都やその圏内にある地域と夕張市との連携強化が図られれば、あらゆる分野において夕張再生のための大きな成果が生まれてくるものと考えます。

それは、単に人や物が集まるということだけではなく、東京都が持つ様々なノウハウやネットワークを夕張に活用することで、地域再生の基盤づくりに向けた大きな効果が期待できるからです。

私は、自分の前職である東京都との連携をより一層強化し、様々な効果を発揮させていくためにも、東京都との人的なつながりを強めることからスタートしたいと考えております。

当面、副市長は置かず、その代わりに道からの理事の派遣と同様に、東京都に対しても副市長相当職としての理事の派遣を要請していたところでありますが、人選も決まり、この7月1日から派遣されることとなりました。

また、すでに東京都庁各局の総合調整を行う知事本局部内に夕張支援窓口を設置していただき、夕張再生に向けた具体的な支援策について、本市と連携を取りながら都庁の関係部局との調整に着手しているところでもあります。

こうした特定地方に対する特命チームの設置は過去に例がなく、私は東京都が持つ優秀な人材、大きな経済力、素晴らしいノウハウをこの夕張に活用させていただきながら、夕張が元気を復活させ、地域に活力が出てくるような施策を打ち出していきたいと考えます。

終わりになりますが、我がまち夕張は依然として厳しい環境に置かれたままの状態にあります。

しかし、それは夕張のみの問題ではなく、事の軽重はありますが全国の多くの自治体が少なからず同様の問題を抱えながら悪戦苦闘している状況にあると言えます。

だからこそ、最も厳しい条件下にある夕張が真の再生を成し遂げることで、地域の再生に向けた希望

の輝きを他の自治体に示すことができるものと考えます。

また、全国からご支援をいただいている夕張が再生に向けて一丸となって頑張っている姿を見せることが、本当の恩返しにつながるものと思っております。

厳しい時代、厳しい環境下であればこそ、頑張る姿が輝くものであると信じ、これからの市政運営と新たなまちづくりに挑戦してまいりたいと存じます。

私たちが歩む道は過去に誰も経験などしていない道であり、それはいばらの道と言っても過言ではないと思います。

しかし、何としても歩んでいかなければならない道です。

この道を、市民の皆様、議員各位と共に力強く前に向かって歩いていきたい。新たな可能性を創造するまちを皆様とともにつくっていきたい。そんな気持ちでいっぱいであります。

市民生活を守り高める市政の運営とそのための具体的な施策の実施については、今後、議会にお諮りをし、ご議論とご審議を願うこととなりますが、市民の皆様並びに議員各位におかれましてはより一層のご理解とご協力を賜りますよう衷心よりお願いを申し上げます、私の所信表明とさせていただきます。

御清聴、まことにありがとうございました。(拍手)

●議長 高橋一太君 教育長。

●教育長 小林信男君(登壇) 平成23年度の教育行政執行方針をご審議いただくに当たり、その大綱を申し上げ、市議会並びに市民の皆様のご理解とご協力を得たいと考えます。

教育基本法は、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成にある」と、その目的を指し示しており、教育の基本理念を明確にしているところであります。

これらの理念を踏まえ、市民の信頼と期待に応えるために必要な教育環境の整備を図り、教育の質を

高めていくことは極めて重要であります。

さらなる地域人口の減少、少子高齢化の進行、地域社会の変化など厳しい状況にあっても、地域の暖かい眼差しの中で夕張の未来を担う子どもたちが人間性豊かで創造性にあふれ、心身共にたくましく成長していくよう取り組んでいくとともに、夕張市民一人ひとりが生涯にわたって文化やスポーツに親しみ、学習し、生きがいを持って生活できる生涯学習社会を展望し、教育行政の執行に努力してまいります。

自然豊かな緑の大地と炭鉱（やま）の歴史、そこに住む市民の苦闘の歴史により築かれた郷土夕張に誇りを持ち、自主・自立の精神に満ちあふれ、心豊かに共に支え合い、夢や希望に向かってたくましく生きる人を育むことを基本理念としながら、小中学校1校化の方針に基づき、昨年には夕張市立夕張中学校が、本年4月には夕張市立ゆうばり小学校が開校いたしました。

小中1校体制のもと、地域との連携、地域の方々との協働を通して、夕張ならではの新しい学校づくりを進めてまいります。

第一には、教育活動の成果を診断・評価する学校評価をもとに、その結果をPTA諸会議や学校だより等を通し、保護者、地域に公表しながらご意見をいただき、特色ある学校づくりに取り組むとともに、学校が保護者や地域住民の考えを把握し、学校運営に反映させ、地域の協力を得て学校運営を行うことが重要であるため、地域の代表、学識経験者、PTA役員などで構成する組織、仮称ではありますが夕張学校サポート会議を立ち上げ、地域に開かれた学校を基盤として、児童生徒の発達段階に応じ、地域の特性や課題をもとに、生命の尊重と心のふれあいが大切にされる教育を目指します。

第二には、地域の教育力を活性化するため、夕張市全体で学校教育を支援する学校支援地域本部事業の活動をさらに進め、地域に開かれた学校づくりを推進してまいります。

第三には、幼・小・中・高校間の連携を深めるた

め、各学校の代表者等による検討組織、仮称ではありますが夕張市学校連携協議会の立ち上げを図るとともに、学ぶことに楽しさや成就感を持ち、基礎的・基本的な力を確実に定着させる学習指導の工夫充実、創意を生かし、活力に富む教育諸活動の充実に努めてまいります。

そのため、体験的な学習、地域の自然、地域社会の素材を活用した学習や総合的学習の時間を通して、地域の人々などの参加による学習活動の指導の充実に努めてまいります。

小学校にあっては特別支援教育支援員等を活用し、子どもの発達段階や実態に即しいろいろな学習の機会を工夫して、学習した内容が確実に身につくような取り組みを進めるとともに、中学校では千歳市と連携し、デジタル教材やeラーニングシステムを活用した新しい授業を行うための教育環境の整備を進めてまいります。

読書活動につきましては、児童生徒がより豊かに生きるために大切であることから、学校や家庭で読書に親しむ機会を増やすよう努めるとともに、図書コーナーと学校図書館との連携や巡回文庫の充実など、読むことに対する興味・関心を高めるための取り組みを進めてまいります。

外国語活動につきましては、外国語指導助手、ALTの活用を通して、中学校での外国語教育の充実と小学校における国際理解、外国語活動の充実推進に努めてまいります。

生徒指導につきましては、子どもたちが明るく元気に学校生活を送れるように、教職員が一体となり、児童生徒の悩みや苦しみの早期発見、早期対応のために常にコミュニケーションを図り、信頼関係を築きながら、行政、学校、家庭、地域の連携をさらに深め、日常的な生徒指導研修等を通して情報の共有と専門性の活用を進めてまいります。

小中学校の統合により、これまで交流の少なかった地域の児童生徒が一つの学校で学ぶことから、スムーズに環境の変化に適応し、より良い人間関係が築かれるよう、また、いじめや不登校の未然防止な

ど、生徒指導の課題解決に向け、中 1 ギャップ未然防止事業などを活用した取り組みを進めてまいります。

教材・教具、備品等教育条件整備及び学校の維持補修につきましては、財政再生計画を進めていく中で、児童生徒の学習活動に支障がないよう努めてまいります。

児童生徒の健康安全指導につきましては、生命の尊さ、体力の向上、運動能力の助長や健康で安全な生活を営む能力の育成のため、新たに加わる武道も含め体育授業の充実、学校安全並びに交通安全指導の推進について、地域、関係団体とも連携を深め進めてまいります。

児童生徒の通学の安全安心対策につきましては、ソフト面では岩見沢市と連携した児童見守りシステムや一斉同報サービスを導入したところであり、登下校情報等のサービス提供に努めるとともに、バス添乗員やバス停付近における見守り隊員及び見守りの家の配置の充実や、高学年の児童が低学年児童をサポートする体制の醸成に努めてまいります。

ハード面の対策としては、信号機、横断歩道、バス停車帯などの交通安全施設の整備について関係機関に引き続き要請するとともに、バス待合所についても引き続き財源確保を含め必要箇所の設置について検討してまいります。

通学の安全確保については、これらハード・ソフト両面の対策の充実を図るとともに、市内各地域に結成されている自主防犯組織等とも連携を図り、児童生徒が安全安心に通学できる体制を地域ぐるみで進めてまいります。

特別支援教育につきましては、対象児童生徒の宿泊学習を実施するなど、社会との様々な交流の場を設けるとともに、障がいを持つ子どもたちの支援と指導のため、関係機関の代表で構成している夕張市就学指導委員会での対応や特別支援教育連携協議会の設置など、指導の充実を努めてまいります。

学校保健につきましては、引き続き学校、保健所など関係機関と緊密に連携し、インフルエンザなど

の感染症の予防対策に努めてまいります。

学校給食につきましては、児童生徒の発達段階に即した献立の充実と、食に対する指導計画・実践を通して食育の充実を図り、学校、保健所など関係機関と緊密に連携し、食中毒など給食事故を防止し、子どもたちに喜ばれる学校給食の提供に努めてまいります。

これら学校教育の充実のため、教職員が自らの使命と専門性を高めることの意義を踏まえ、児童生徒の学力向上に向け、日常の教育実践や工夫を積極的に進めるとともに、学校内外における授業研究と共同研究の推進、その公開等、研究・研修を充実し、教職員の資質向上に努めてまいります。

教職員人事につきましては、学校統合による激変緩和措置及び学級編制基準や定数増の改善等を北海道教育委員会に要請するなどして、職員配置の適正化を図ってまいります。

教職員の健康管理では、生活習慣病や心の病の未然防止に努めるとともに、早期発見のための検査等を積極的に進め、疾病の早期治療を働きかけてまいります。

ユウパロ幼稚園につきましては、地域の保育園、学校、福祉施設などとの交流を通し、様々な人々との触れ合い体験による社会性の育成や、英語で遊ぶ、自然に学ぶなど、学びと遊びを中心とした教育課程の充実を図るなど、魅力ある幼稚園づくりを通じ、引き続き園児の確保に努めてまいります。

次に社会教育の推進につきましては、第 4 次社会教育中期計画の方針に沿って取り進めてまいります。

市民が心身共に豊かで健やかな、潤いのある生活を営むために、社会教育が果たす役割は大きなものがあると認識するものであり、文化団体、体育団体、各種の市民団体やサークル等との連携を図り、その活動を支援し、文化、芸術、スポーツの振興に努めてまいります。

社会教育の対象は幼児から高齢者まで極めて幅広く、そのニーズも多種多様なものがあります。しかしながら、厳しい状況の下にあっても、そのニーズ

に応えることもまた、教育行政に求められているところでもあります。

生涯学習関係の市民グループや北海道教育大学岩見沢校の継続的な支援・協力による学習機会の提供と協働・連携し、取り組みを推進してまいります。

青少年教育につきましては、全市横断的な子どもの交流を促す中で、社会的ルールや思いやりの心を育んでいくことが重要であると考えており、関係団体等とも連携しながらその充実に努めてまいります。

また、児童生徒に対し生の舞台芸術など優れた芸術作品に接する機会を設けることにより、子どもたちの豊かな情操を育むため、芸術鑑賞事業の充実に努めてまいります。

高齢者教育につきましては、引き続き高齢者学級、もも倶楽部を開設し、生きがいや健康をテーマに、保健行政など関係機関とも連携して、講座の充実に努めてまいります。

文化財の保護・活用につきましては、貴重な動植物が生息する夕張岳の自然環境を守る活動や、夕張の歴史を語る施設や郷土資料を守る活動などを関係行政機関や市民団体と連携して情報の発信、啓発活動などに取り組んでまいります。また、夕張中学校の空き教室を活用して整備している、現在、整備しているわけではありますが、歴史資料室については児童生徒の利用のみならず、広く市民に公開してまいりたいというふうに思います。

図書コーナーにつきましては、蔵書の充実に努めるとともに、図書貸し出し業務のほか、読み聞かせ活動、巡回文庫、道立図書館の協力事業などを市民ボランティア組織等の協力をいただきながら、市民、子どもたちのための読書活動を推進します。

また、昨年度導入したインターネットによる図書検索システムを活用し、道立図書館等との連携強化、運営の効率化、利用者の利便性の向上を図ってまいります。

清水沢地区公民館での図書の貸し出しについては、配置図書数の増に努め、利用者の利便性の向上と運営の充実に努めてまいります。

美術館につきましては、引き続き指定管理者による運営を行ってまいります。多くの収蔵作品があることから、市庁舎2階に開設しているふるさとギャラリーにおいてその一部を展示したり、小・中学校での展示など市民の鑑賞機会の提供に努めるとともに、所蔵作品の有効活用を図ってまいります。

文化スポーツセンター、テニスコート、平和運動公園、清水沢プールについては、市民の利用にとどまらず、市外のスポーツ愛好家も利用する貴重な体育施設であります。引き続き利用者への利便性を考慮しつつ、創意工夫を重ね、さらに積極的かつ合理的な管理運営を行うとともに、ネーミングライツによる新たな財源確保を図り、子どもからお年寄りまで、気軽に楽しくスポーツに親しむことができる施設運営を進めてまいります。

指定管理により運営されている清水沢健康会館、南部体育館、市営野球場、紅葉山パークゴルフ場につきましては、地域の貴重な体育施設であることから、引き続き指定管理者と連携し、運営の円滑化と利用促進を図ってまいります。

また、これら施設において開催されるスポーツ大会、イベント等の実施に当たっては、主催者や各種競技団体との連携を図りながら、必要な支援協力を行うなど、体育・スポーツの振興と施設の有効活用を推進してまいります。

教育委員会といたしましては、どんな厳しい状況下にあっても故郷夕張の自然、歴史や風土の上に乗って、新しい社会の変化に柔軟に対応しながら、力強く、心豊かに生きていく子どもたちを育てること、そして夕張市民が文化、芸術、スポーツに触れ、様々な活動を通して学習し、毎日の生活を健康で明るく楽しめるよう、市民の協力・協働の力をいただきながら、夕張教育の推進に努めてまいります。

市議会並びに市民各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、平成 23 年度の教育行政執行方針といたします。(拍手)

●議長 高橋一太君 以上で日程第 4 を終わります。

●議長 高橋一太君 以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

お疲れさまです。

午前11時40分 散会

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により、ここに署名する。

夕張市議会 議 長 高 橋 一 太

夕張市議会 議 員 高 間 澄 子

夕張市議会 議 員 熊 谷 桂 子